

(様式4)

平成27年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立会瀬小学校 教諭 原 朋子

- 1 派遣期日 平成27年10月17日(土)
2 研修先 学校名(会場名) 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp>

3 研修内容

第1回国語授業のユニバーサルデザイン実践研究大会
「全員参加」を支える国語授業力

(1) 提案授業「うみのかくれんぼ」(光村1年上)

クラスを二つに分け、同一教材で異なる指導方法で提案授業が行われた。

①小田原市立豊川小学校 片岡 寛仁先生

研究主題：—5つのテクニックを意識し「わかった・できた」へ—

全員参加を支える国語授業力のための3つの目

〈第1の目 国語科で、何を教えるのか〉

〈第2の目 「うみのかくれんぼ」の教材分析と単元構成の目〉

〈第3の目 全員参加を支える5つのテクニック「ひきつける工夫」「方向づける工夫」「そろえる工夫」「むすびつける工夫」「わかった・できたと実感できる工夫」〉

②戸田市立戸田第二小学校 笠原 三義先生

研究主題：—話し合いを誘発する「しかけ」と即時的に参加を促す指導技術で全員参加を実現する—

「話し合いたくなる場面を作るもの」と「授業に即時的に参加を促すもの」を使って授業の活動を作っていくことが、「全員参加」へと近づくことになる考える。前者を具現化したものが教材にしかけをつくることであり、後者を実現するものは、学習を共有化する発問および指導技術である。

(2) 授業協議会「全員参加」を支える国語授業力
提案授業の反省、提案授業に対する質疑・応答

(3) 授業プレゼンテーション 模擬授業形式で国語授業の作り方が具体的に提案された。
1年文学「サラダでげんき」東久留米市立第五小学校 石井 壘先生

研究主題：—1年生の文学教材のUD化を図る—

「全員参加」の授業の作り方 3つの基本

・【指導する論理の焦点化】(*あれもこれも手を出さずに指導する論理を絞って授業を作る。)

国語科は論理を教えるスキル教科である。指導する「論理」を絞り、授業のねらいを明確にしてから指導することが大切である。学習指導要領を基にした指導表と教材の特性、児童のレディネスを踏まえて指導内容を明確化していくこと、指導をシンプルにしていくことが大切である。

・【イメージから論理へ】(*課題の質を少しずつ高めていくイメージで授業を作る)

①イメージを作る(教材へのイメージの差を埋める)→②論理を指導する→③論理を活用する(表現) この順番で指導することが大切である。

・【コップのバランスを崩す】(*課題の提示の仕方をドラマ化する。)

児童が活動するのは、バランスが崩れたときである。教師が間違えた時や、違和感を覚える教材を見た時、子供は思わずその間違いを正そうと動き出してしまうのである。この性質を利用し、話したり考えたりしたくなる状況を意図的に仕組むのである。

- (4) 授業プレゼンテーション 模擬授業形式で国語授業の作り方が具体的に提案された。

6年文学「海の命」日野市立日野第三小学校 石原 厚志先生

研究主題：国語科授業におけるユニバーサルデザイン
～全員参加の文学の授業づくり～

三つの要件を踏まえて授業をデザインする。

- ①授業を焦点化する。【シンプル】
- ②授業を視覚化する。【ビジュアル】
- ③授業を共有化する。【シェア】

- (5) 講演「全員参加」を支える国語授業力 筑波大学附属小学校 桂 聖先生

- ・「全員参加」の授業は質を落とすのではない。できる子はさらにレベルアップできる。
- ・ユニバーサルデザインの視点はオリジナルのものを作ることが大切である。目の前の子供の実態をきちんと把握し、ねらいを明確にとらえて、手立てを考えていく。一時間の授業をきっかけとして好きになれる、動き出せるような子どもを育てることが大切である。
- ・詩「どきん」 模擬授業
○○（中心人物）が何をたおして誰にどきんする話？
人物の設定が変われば、話（内容）が変わる。
- ・教材のしかけで児童の反応を引き出す。ひきつける、そろえる。
- ・授業展開の構造化（授業のストーリー作り）ゼロ段階…教室の空気を作る。
 - (1)内容理解…人物の様子や心情理解，説明内容の理解
 - (2)論理理解…論理的読み
 - (3)全員表現
- ・授業場面におけるリズムとテンポ
さっさと確認する。→じっくり思考・解釈をする。→表現を楽しく味わう。
- ・話したくなる場面を作る即時的な対応力「10のしかけ」
 - ①「どういうことなの？」と、わざと分からないふりをする。
 - ②「絶対？本当？」と、わざと正しさに疑問をもつ。
 - ③「こういうことかな？」と技と違う意味で解釈する。教師が理解の遅い子の役をする。
 - ④「AさんとBさんの意見で同じことは何かな？」と共通点を際立たせる。
 - ⑤「AさんとBさんの意見は、どちらがいいのかな？」と対立させた上で問い返す。
 - ⑥「Aさんはこういう場合だったけど、もし～だったら？」と異なる条件で仮定する。
 - ⑦「この発表した子の気持ちや考えがわかるかな？」と他の子に説明や解釈を求める。
 - ⑧「この子の発表のいいところは何かな？」と友達の考えのよさを際立たせる。
 - ⑨「間違いだけど、考え方のよいところは何かな？」と他の子に思考過程のよさを探らせる。
 - ⑩「AさんとBさんの意見は、どちらがいいのかな？」と、対立させた上で問い返す。

しかけ

①隠す ②選択肢

③人物を仮定する

4 感想

今回の研修では、「全員参加」を支える国語授業の作り方を学ぶことができ、大変有意義であった。提案授業では、同じ教材であっても教師の指導の仕方で全く異なる展開となっていたのが面白かった。どちらの授業にも様々なしかけがあり、児童は意欲的に取り組んでいた。授業において、「分かった！」と手が挙がった児童を指名すると授業が終わってしまう。

まだ分かっていない児童のために、何が分かったのかをペアで相談するなど、共有化していくことが大切であることが分かった。

模擬授業形式でのプレゼンテーションでは、実際にペアで話し合ってから発表することの安心感や選択肢があることにより自分の考えをもてることが体験できた。また、視覚的な「教材のしかけ」を実際に体験し、分かりやすいこと、ひきつけられることも実感した。これは、国語だけではなく、どの教科でも使うことができる。日々の授業に取り入れていきたい。

児童の実態に合わせ、つまずきを想定して手立てを考えることで「全員参加」の授業に少しでも変えていきたいと考える。今後もさらに研修していきたい。